

第 64 回全国社会教育研究大会（広島大会）参加報告

2023.1.16 新潟市社会教育委員会議 雲尾周

会場：広島国際会議場（26 日事務局担当者会議 YMCA 会館）

多様性を生み出し“百万一心”の心根で未来をつくる社会教育！！

10 月 27 日(木)

10:00～11:00 一般社団法人全国社会教育委員連合 総会（68 名中出席 38 委任状 27）

第 1 号議案 第 65 回全国社会教育研究大会（宮崎大会）令和 5 年 11 月 8 日～10 日

第 2 号議案 第 66 回全国社会教育研究大会（茨城大会）令和 6 年 10 月 23 日～25 日

第 3 号議案 第 67 回全国社会教育研究大会の開催地区について：東北地区（岩手県）

第 4 号議案 理事の退任および選任について（愛知県、長崎県。大阪市は未選任）

報告 令和 4 年度社会教育委員活動活性化セミナーおよび助成事業について

セミナーに大阪府社会教育委員連絡協議会。助成事業は応募なし。

12:30～13:00 アトラクション（広島山陽学園高校和太鼓部：これなくなりビデオに変更）

13:00～13:50 開会行事（表彰等）

14:00～15:20 記念講演 演題「広島〇サッカーの軌跡 ～百万一心の精神でつくる広島の未来～」仙田信吾サンフレッチェ広島代表取締役

15:43～17:00 シンポジウム これからの時代を見据えた学びのデザイン

～ニューノーマル時代における社会教育の在り方～

コーディネーター 志々田まなみ国立教育政策研究所総括研究官

シンポジスト 小田圭介裾野市おやじの会何もしない合宿実行委員長

平尾順平 NPO ひろしまジン大学代表理事

山崎瑞穂島根県社会教育委員、親学ファシリテーター

藤田昌也山口県教育庁地域連携教育推進課社教主事

○やりたい人がやりたいことをやる。やりたくない人はじゃましない。子ども発もある（ドッジボールしたいなど）。学校“解”放（放課後だけでなく土日子どもたちが使えるよう、ただ借りる）。中学校の 3 年間地域とつながり続けることが大切（小学校の次に地域に関わるのが 30 代になってしまう）。

○広島全体を大学に見立て市民相互の学び合いの場を創る。授業やサークルを展開。コロナ禍でも、個人活動：近所の人が気になる人がお手紙書いてみた。公園のゴミが気になる大学生がごみ拾い活動に参加してみた。その体験をネットで報告・共有する。

学びの場をサービスにしない、参加者・当事者にする。

○島根県の「親学」全県に 1000 人以上のファシリテーター。太田市で始めて出雲市に転居。出雲市公式 YouTube チャンネルなど。社会教育活動の支援者・親として学習者。

○「やまぐち型地域連携教育」の推進：県の将来を担う人材の育成。地域の活性化、人口定住・地方創生の実現。令和2年度県内全校CS、様々な団体と連携・協働。中学校区の地域教育ネット。熟議（子どもも参加）。「はつらつ山口っ子！」（県教委企画・山口放送）

17:00～17:10 閉会行事 次年度全国社会教育研究大会担当県（宮崎）によるPR

次年度中国・四国社会教育研究大会担当県（島根）によるPR

10月28日(金)

9:30～12:00 分科会

第1：地域学校協働活動による地域づくり

つがる市地域学校協働活動、高知市立春野中持続可能な地域とともにある学校の実現

第2：家庭教育支援・子育て支援の充実

霧島市「地域で親子の育ちを支える仕組みづくり」、浦添市・まちづくりうらぞえ
母と子の切れ目のない支援を目指した地域連携の取組について～教育と福祉の融合～

第3：人生100年時代を見据えた社会教育の在り方

ふるさと黒部 つむぐプロジェクト、東広島市熟年マイスター教育講座

第4：社会構造の変化に伴う社会教育施設の役割【雲尾参加】

島根県吉賀町公民館×ICT ～GIGA スクール時代の学社融合～

「岡山市立公民館基本方針」の策定と公民館の取組

○岡山市では教育振興基本計画はあるものの社会教育に関する記述は少ない。3年前に公民館に関する方針を策定。平成12年公民館検討委員会答申に基づく実践：公民館のミッション「共生のまちづくりの拠点となること」。ESD 推進のための公民館—CLC 国際会議～地域で学び、共につくる持続可能な社会～岡山コミットメント2014。平成30年公民館基本方針「ともに わたしたちが 未来をつくる 開かれた公民館」～=出会う つながる 学び合う 活躍する～ ⇒効果：公民館全体の取組を高める。地域防災・若者地域参画などに力を入れ新たな地域活動の場となることを示す。職員が事業の優先度を考える。

全館に光回線、Wi-Fi 利用可能。

○島根県の一番南西部。旧5村に各1公民館。5小3中。学校・公民館・教育委員会などで同じレベルのIT環境が整備されたことにより、コミュニケーションが促進され、よりチームワークが高まっている。ふるさと教育／キャリア教育／総合学習など学校教育と社会教育が現場レベルで重なり合っていく必要があり、GIGA スクール時代の学社融合につながる。一般的なGIGA（学校での授業／宿題生活）＋吉賀町GIGA（地域社会での探究・学び・挑戦：公民館、家庭、学童保育・・・）。公民館すべての部屋でWi-Fi可能（メッシュWi-Fi）。職員1人1台Chromebook（日常的に持ち帰り可）、個人メアド（私的スマホから操作可）。学校のEducation（無償版）に乗っかっている。学校含め教委の一括管理。

○助言者・コーディネーター：遠藤由美子公立鳥取環境大学環境学部長によるまとめのキーワード「人材」と「持続可能性」

以上